



大学評価学会 第2回秋季研究集会

2004年4月1日に、「大学評価(第三者評価)」が法的に義務づけられてから1年余りが過ぎました。この「大学評価」の実施に関して全国でさまざまな問題が生じてきております。第2回秋季研究集会は、「大学マネジメントと大学評価」につい

大学マネジメントと大学評価

会員報告(10:00~12:10)

「若手研究者と評価問題」中村征樹氏(東京大学)

「国立大学法人における大学評価の現況」山田康彦氏(三重大学)

シンポジウム(13:30~17:15)

政府によって導入された「第三者評価」は、教育・研究のあり方や、大学経営(マネジメント)のあり方を大きく変えようとしています。目に見える形での“成果”が求められ、教育・研究の序列化が進められるとともに、大学・研究機関はこれまでにない競争にさらされようとしています。そのような中、全国の大学では、そのマネジメントの変化に伴う諸問題に直面しています。本シンポジウムでは、「大学マネジメント」と「大学評価」との関係性について議論していくことにします。

報告者および論題

植田健男氏「大学における教育課程づくりと評価」(仮)

1955年生まれ、京都大学大学院教育学研究科博士課程学修認定退学、現在、名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授、専攻は教育経営学。主著に、『カリキュラムをつくりかえる』国土社、1995年、『組織としての学校』柏書房、1996年など(いずれも共著)。

細井克彦氏「大学マネジメントと国立大学法人」

1944年生まれ、東京大学大学院教育学研究科博士課程修了、現在、大阪市立大学大学院文学研究科教授、専攻は教育行政学。主著に、『戦後日本高等教育行政研究』風間書房、2003年、『設置基準改訂と大学改革』つむぎ出版、1994年。

重本直利氏「大学経営における“成果”と“公共性”」

1949年生まれ、立命館大学大学院経営学研究科博士課程単位取得、現在、龍谷大学経営学部教授、専攻は経営組織論、社会経営学。主著に、『社会経営学序説』晃洋書房、2002年、国庫助成に関する全国私立大学教授会連合・高等教育政策検討委員会委員。

司会：水谷勇氏(神戸学院大学)

懇親会(17:30~19:00) 於：A棟地下1階 カフェテリア

日時：2005年9月3日(土)

10:00~19:00

場所：東邦学園大学(地下鉄東山線「一社」駅下車、徒歩13分)
A棟2階 A203教室

参加費：無料(懇親会費3,500円)

問い合わせ先：大学評価学会事務局

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67番地 龍谷大学 重本直利研究室気付

TEL: 075-645-8630(重本)・8634(細川) e-mail: a97003as@ryukoku-u.jp

URL: <http://www.unive.jp/>